

注目作家プログラム チャンネル …学芸員が注目する作家を紹介する展覧会。2010年度に始まり、毎年1回、秋～冬にかけて約1か月間開催。会場はアトリエ1を中心とした美術館内の各所。

回	開催年度		会期	展覧会名	展示内容
1	2010年度	平成22	2011年2月18日～3月19日	林勇気 あること being/something	関西を拠点に活躍する映像作家・林勇気(1976年 京都府生まれ)の個展。我々が現実世界に対して抱くリアリティと、テレビやコンピューターなど様々な媒体に見出される映像世界のリアリティとを批評的かつ繊細に表現する林の新作《あること being/something》を中心に構成。
2	2011年度	平成23	2011年10月1日～11月23日	イチハラヒロコ「あなたにほめられたくて。」	言葉を用いた作品で知られる作家イチハラヒロコ(1963年 京都府生まれ)の個展。横浜トリエンナーレ2001などの大規模な国際展にも参加し、ユーモラスで辛辣な作品は国内外で広く知られている。本展では、岩屋駅から美術館内部に至るまでの空間に新作を中心とする17点を展示した。
			2011年10月1日～11月23日	大西伸明 UNTITLED	滋賀県在住の作家、大西伸明(1972年 岡山県生まれ)の個展。身の回りにある物を型どりして作品を制作する大西の作品は本物と見間違えるほど精巧だが、本物とはまた違った魅力を湛えている。「本物」「複製」の概念と存在とを問うことを展示の狙いとした。
3	2012年度	平成24	2012年11月27日～12月24日	河合晋平博物館	京都で活動を続ける河合晋平(1971年 大阪府生まれ)の個展。主に合成樹脂を用いた独自の技法によって制作された「存在物」と自ら呼ぶ作品を展示、未知の生物を思わせる形態、色彩、マチエールを持った「存在物」を数多く並べることによりバーチャルな生態系ともいべき空間構成とした。
4	2013年度	平成25	2013年11月2日～12月21日	薄白色の余韻 小林且典	造形作家、小林且典(1961年 兵庫県生まれ)の個展。瓶や皿、壺などの身近なものを題材にした蝋型鑄造と木彫作品によるインスタレーションと、それらを自作レンズによるカメラで撮影した写真を合わせて展示。
5	2014年度	平成26	2014年12月6日～12月21日	木藤純子 Winter Bloom	関西を拠点に制作を続ける木藤純子(1976年 富山県生まれ)の個展。会場である当館アトリエ1をはじめ館内の各所に花卉が舞い落ちるインスタレーション等の作品を設置し、さまざまな仕掛けで空間を演出する展示を行った。
6	2015年度	平成27	2015年10月29日～11月29日	国谷隆志 Deep Projection	関西を拠点に活動する国谷隆志(1974年 京都府生まれ)の個展。ネオン管を加工して日常品としての機能を失わせた上で再び空間に設置、日常風景を一変させる新たな鑑賞体験を意図した作品をアトリエ1、コレクション展示室のEVホールに設置。
7	2016年度	平成28	2016年10月15日～11月20日	高橋耕平 街の仮縫い、個と歩み	京都を拠点に活動する高橋耕平(1977年 京都府生まれ)の個展。1995年に起こった阪神・淡路大震災以降の都市の経験や記憶をテーマに、神戸・阪神間で撮影した映像や写真等から成るインスタレーションを展示。

8	2017年度	平成29	2017年8月26日～9月24日	井上涼 忍者と県立ギョカイ女子高校	アニメーション作家井上涼(1983年 兵庫県生まれ)の個展。「忍者と県立ギョカイ女子高校」と題する井上の新作映像インスタレーションを展示。井上の独特の言葉使いとメロディに乗って空間に映し出される作品の舞台は、魚介類が通う女子高「県立ギョカイ女子高校」。見る、聴く、感じる、笑う、泣く。人間の感情や感覚が凝縮された井上涼ワールドの魅力と謎に迫った。
9	2018年度	平成30	2018年11月3日～12月2日	和田淳 私の沼	神戸市在住のアニメーション作家、和田淳(1980年・兵庫県生まれ)の個展。沼の周囲で繰り広げられる様々な出来事を、繊細な線描による絵と、諧謔と不思議さに満ちた構成で描き出した映像インスタレーション「私の沼」(2017年)を上映、和田の独創性あふれる短編アニメーションの世界を紹介。
10	2019年度	令和元	2019年11月23日～12月22日	入江早耶 純真(ロマンス)遺跡～愛のラビリンス～	広島を拠点として活動する入江早耶(1983年 岡山県生まれ)の個展。イメージを消した消しゴムの消しカスもちいて細密な立体物を制作する手法で知られる入江が、兵庫県に伝わる「菟原処女うないおとめの伝説」をテーマとした新作を制作、館内各所にて展示した。
11	2020年度	令和2	2020年11月21日～12月20日	徳重道朗 ゆきゆきて神戸	愛知県生まれの作家、徳重道朗(1971-2023)の個展。会場をなんらかの風景に見立て、その場所の特性を巧みに活かしたり、場所の意味を引き出したりするインスタレーションで知られる徳重が、流しの設備がある兵庫県立美術館のアトリエ1の会場を使い、水や水利に関する新作インスタレーションを展開。
12	2021年度	令和3	2022年2月26日～3月27日	飯川雄大 デコレータークラブ メイクスペース ユーズスペース	神戸市を拠点に活動する飯川雄大(1981年 兵庫県生まれ)の個展。世界中の海に生息し周辺環境に擬態する性質を持った蟹(Decorator Crab)から着想し、2007年から継続しているプロジェクト、「デコレータークラブ」のシリーズとして開催。鑑賞の方法を刷新し、美術館あるいは観客を拡張していくことを試みた。
13	2022年度	令和4	2022年10月8日～11月6日	吉村宗浩 画家とアトリエメチエの修行場	神戸にアトリエを構える画家吉村宗浩(1961年 兵庫県生まれ)の個展。流行を追わず奇をてらうことなく独自の表現を追求しつづけ、美術の道を志して30年をかけてたどりついた独創的な絵画世界を紹介。